

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第42回部会）会議録

日時：令和5年3月9日（木）まちづくり協議会終了後～午後7時50分
場所：東淀川区役所3階区民ホール

【議事】

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議題
(1) 部会アンケートについて
(2) 活動報告及び意見交換
(3) その他
- 4 その他
- 5 閉会

≪配付資料≫

- ・ 議事次第
- ・ 部会員アンケート

1. 開会

2. 部会長あいさつ

- ・ 来年度の進め方についても部会員の皆さんとしっかりと相談させて頂きながら進めていきたい。
- ・ それぞれの地域で作成をお願いしているアクションプランについては、各地域でしっかりと地域活動協議会の皆さんと構想部会が一緒になって作っていきたいと思っている。
- ・ あくまでもアクションプランの作成については、地域活動協議会の皆さんが主体となって、そしてこの構想部会が連携しながら一緒になって取組んでいくものだと考える。今後とも協力をお願いしたい。

3. 議題

(1) 部会アンケートについて

(事務局)

- ・ まちづくり構想部会の活動に関して、今年度は「毎回報告している」という回答が増加した。
- ・ まちプランの進め方に関して、「地域の役員の方以外の意見も取り入れたい」や「地活協ができて10年が経過し、各事業の見直しが必要でその際に一緒に計画も検討したい」といった意見を頂いた。
- ・ 部会の進め方に関して、「他の地域の意見や久先生のアドバイスは参考になる、他の地域から率直な意見、アドバイスを貰いたい」といった意見を頂いた。
- ・ まちづくりの将来像に関しては、東淀川区の5つの運営方針を例として挙げさせて頂いていたが、多くの部会員から多くの項目を達成したいという回答を頂いたのではないかと考えている。自由記述でも「できれば全てを達成したい」や「全てのことを意識してプランに反映するべきだと考えています」と意見を頂いている。

(質疑応答)

(部会員)

- ・ 現状、2ヶ月に1回構想部会を開催しているが、少なくともいいのではないかと考えている。事務局とし

てはどのように考えているか。

(事務局)

- ・今までは2ヶ月に1度の開催で情報共有するスタイルで開催してきたが、適切な回数だと思っている。

(部会員)

- ・部会の開催に伴って、事務局も資料を作成しないといけないと思し、現状の部会では何を話し合っただけで何が決まったのかと聞かれた時に、返答がしづらい状況である。地活協で報告した際に回数が多いと思っていることを伝えてみてはと言われたので今回発言させて頂いた。他の部会員の意見も聞いてみたいと思っている。

(意見等)

- ・特になし

(事務局)

- ・この3年間コロナ禍という事で、地域の中に事務局として入っていく事ができなかった。これからは地域の中に入っていける体制に近づいたと思っている。会議の開催回数については、今後考えていく必要が出てくると思う。
- ・今後、事務局も地域の中へ入り会議等の回数も増えていくと考えている。今後の推移を見ながら、検討させて頂くという形でよいか。

(部会員)

- ・承知した。

(久教授)

- ・部会の目標としては、地域のアクションプランを作り、動かしていくための情報交換の場が一番大きな目標だと思う。
- ・アクションプランや地域別保健福祉計画を策定している地域からは策定後の動きを教えてください。その後、計画がどのように役に立っているか、或いは策定したが具体的な話まで落とし込めてないという話などの情報交換をさせて頂くとありがたい。アクションプランを作ろうと思っている地域の参考にもなる。
- ・ワークショップが開催出来るかどうかは、地域活動協議会がオープンに運営されているかの1つの指標もなる。一部の役員が決め込むやり方をしていたところは、皆で話し合っただけで組み立てていくという習慣がなかなか出来上がっていないように思う。ワークショップには地域の雰囲気も変えていく可能性を持っている。
- ・ワークショップを開催することに苦戦するという事は、地域活動協議会の運営体制にも課題があるという可能性もある。突破口はあるはずなので、そこを一緒に探して欲しい。
- ・部会員からワークショップの運営はどのようにするのか相談されたことがある。今までは各団体の長や役員に声をかけて団体の役員同士での話し合いをやってきた。しかし、地域の中で意見を持っているのは部会員と地域活動を通じて関係ができていない人ではないかと、まずはそこから声をかけて進めていくのはどうかとアドバイスさせて頂いた。

- ・ワークショップでは、様々な参加者の意見を聞いて、それを整理し、各団体の長が集まる会議でオーソライズさせるという2段階で行うというのも手だと思います。
- ・東淀川区はまちづくりセンターを作らずに、区の職員・嘱託職員さん含めた方々が直接地域の応援をしてくれるという特徴がある。まちづくりセンターがある地域でも10年経つのに地域の変化が感じられないという声を聞き、まちづくりセンターが責任を感じなければならないと話したこともあった。また、10年経ったことで各地域での役員の世代交代がおこってきている地域もある。世代交代がおこっている時期は地域活動協議会を含めた地域活動を見直す機会でもあるのではないかと感じている。
- ・1つの大きな目標はそれぞれの地域でアクションプランの作成、その次にアクションプランに基づいて各地域の活動が進んでいくということである。その根底にある地域活動協議会がちゃんとオープンに運営されているかどうかを確認しながら、各部会で意見交換していけばおそらく地域の雰囲気は少しずつでも変わっていく可能性はある。

(部会員)

- ・久先生から地域別保健福祉計画の見直しについて話が出たのでお話をさせて頂く。見直しのワークショップでは、作成の時より参加者が少ない事が問題になっている。作成時の熱が冷めてしまっているように感じている。

(久教授)

- ・熱が冷めている原因はどこにあると分析しているか。

(部会員)

- ・作成したことで安心してしまったのではないかと思っている。また、どのように活用したらいいのか、必要なか分からないといった状況のように思っている。

(久教授)

- ・どのような組織でも大きな方向性を示したものはあるが、普段は目の前の生活に意識がいくものである。普段生活している中で、ビジョンが本当に必要なのかと疑問に思われるのは確かである。しかし、何か大きな開発等が動き始めた時に皆の活動の積み重ねがバラバラにならないようにするためには、1つの方向に向いていないといけない。
- ・常に地域別保健福祉計画なり、アクションプランがどのように役に立っているのかを考え続けていかないと、何の意味もなくなる。小さな話でもいいから、役に立っているもの探してみたいなことをやっていくことが重要だと思う。この5年間でどこかで何かの役に立っていないかということを、皆で振り返ってみるという作業がとても重要だと思う。ワークショップの時に、「これ本当に必要なのか」という根本的な問いかけをして頂いて、色々な意見を募って頂くことが大切だと思う。

4. その他

- ・次回の部会は5月11日(木)午後7時から、東淀川区役所出張所3階多目的室で開催予定。

5. 閉会

以上